

◇しずおか就職氷河期世代活躍支援プラットフォーム事業実施計画における目標及び令和4年度の実績・評価

支援対象	目標および目標値（3年間）	令和4年度における評価	事業計画に記載されているKPI	令和4年度におけるKPIの進捗状況	KPI進捗状況の評価結果
不安定な就労状態にある方	正規雇用を希望していながら不安定な就労状態にある方について、現状よりも良い処遇を目指すため、支援対象者の正規雇用者数を増やすことを目標とする。	関係機関と連携し、それぞれの窓口の周知や誘導、ハローワークでの求人確保、助成金制度の活用などの取組を進めた結果、ハローワークの正規雇用者数のKPIが16,165人となり、3年間の目標を達成した。一部、「しずおかジョブステーション」に関するKPIが目標に届かなかった。	①ハローワーク紹介による正社員就職件数：3年間で16,000件 ②キャリアアップ助成金活用による正社員転換数：3年間で6,000人 ③「しずおかジョブステーション」に配置した就職氷河期世代就職支援サポーターが行う相談件数：3年間で9,100件	①令和4年度の正社員就職件数は5,879人となり、KPIの数字は達成している。 ②令和4年度のキャリアアップ助成金の正社員転換数は2,024人となり、KPIの数字は達成している。 ③令和4年度の「しずおかジョブステーション」に配置した就職氷河期世代就職支援サポーターが行う相談件数は2,495件となり、KPIの数字は未達成である。	①令和2年4月から、ハローワーク静岡・浜松に「就職氷河期世代専門窓口」を設置。コロナの影響により令和2年度は厳しい状況であったが、専門窓口でのチーム支援の取組により、令和3年度からは改善し目標を達成した。 ②企業の同一労働同一賃金の導入により、コロナの影響もなく順調に推移し、令和4年5月末時点で3年間の目標を達成した。 ③令和2年8月から就職氷河期世代支援サポーターを配置して取り組んでいる。新型コロナウイルス感染防止対策の影響で周知が十分にできず、相談を控える動きもあり、令和3年度を下回った。今後は、就職氷河期世代の方と企業のマッチング会の参加者増と実施後のフォローアップを強化することで相談件数を増やしていく。
長期にわたり無業の状態にある方	就業を希望しながら、様々な事情により求職活動をしていない長期無業の状態にある方については、働くことや社会参加を促す中で本人に合った形で支援を行う必要があることから、地域若者サポートステーションを中心に、関係機関と連携しながら職業的自立につなげることを目標とする。	説明会、HP、ブログ、ポスター、チラシ配布等による周知を図り、関係機関との連携を強化してセミナー、相談会を実施したが、新型コロナウイルス感染防止のため職場体験・実習は企業の受け入れが厳しく、職種が限定され企業実施件数を増やすことができず、KPIは目標に届かなかった。	①サポステへの新規登録件数：3年間で1,900件 ②サポステの支援により就労につながった件数：3年間で1,300件	①令和4年度のサポステの新規登録件数は464人となり、KPIの数字は未達成である。 ②令和4年度のサポステの支援による就労につながった件数は327件となり、KPIの数字は未達成である。	①KPIの達成状況は未達成となっている。その理由として、令和2年度はコロナ禍により、説明会等が中止になり周知不足であった。これを踏まえ、令和3年度からはオンライン説明会やHP、ブログ等で周知広報を図り改善した。今後も関係機関との連携を一層推進していく必要がある。 ②KPIの達成状況は未達成となっている。その理由として、令和2年度はコロナ禍により周知不足であったことから登録件数が少なく、面接会・職場体験等が中止になったためであると考えられる。令和3年度からは面接会やセミナーの開催回数を増やし、関係機関との相談体制を充実させたことから改善した。今後も相談体制の一層の充実を図り、取組を進める必要がある。
社会参加に向けた支援を必要とする方	支援対象者やその家族の実態やニーズに応じた、就労に限らない多様な社会参加に向けた支援を可能とするため、市町レベルのプラットフォームの設置等、支援体制の充実を図り、支援対象者と社会のつながりが生まれることを目標とする。	令和4年度は市町への周知や個別支援の取組を行い、KPIの目標は達成した。	①市町のひきこもり相談窓口設置数：3年間で33市町	①令和4年度の相談窓口設置数は4市町となり、3年間で33市町となりKPIの数字は達成している。	①KPIの達成状況からも目標に向けた取組はおおむね順調と思慮する。順調な成果が出た理由として、説明会等により市町への周知を図り、希望のあった市町に対して専門のアドバイザー派遣など、個別支援等の相談支援体制の整備を支援したことが考えられる。引き続き、周知及び個別支援の取組を進めていきたい。